

校長通信「つぶやき」 佐伯市立鶴谷中学校 校長 渡邊和彦

令和6年5月14日 第5号（通算第60号）

○最高の体育祭

最高の体育祭でした。有り難うございました。みんなが最後まで「最高の体育祭にするんだ！」という気持ちで取り組んでいたのが本当によくわかりました。佐伯市の中学校で最も生徒数の多い学校です。準備期間は他の中学校とほぼ同じ。凄く大変だったことは誰にでも想像ができます。先生方も実行委員の皆さんも、生徒会の皆さんも、応援の皆さん、係の皆さん、そして生徒全員、一丸になって作り上げました。勝って泣き、負けて泣き、やり遂げて泣き、別れを、終わりを惜しんで泣き・・・生きてるって素晴らしいなと思いました。開会式の時に生徒会長の甲斐君が、実行委員長玉井君の今までの頑張りを讃えていた時、玉井君の目には涙が湛えられていました。もらい泣きしてしまいそうだった。「間違いなく最高の体育祭になる・・・」と思いました。そしてそうだった。皆さん、有り難う、ご苦労様です。お疲れ様でした。

○腐ったミカン

「3年B組金八先生」の原作者、小山内美江子さんが亡くなったと知りました。あの番組が始まったのは昭和54年、私は16才でした。まさに、リアルタイム。その頃はNHKでも「中学生日記」という番組があって、なんだか、番組がムーブメントを学校に蔓延させているのではないかと、錯覚さえしたものです。本来は学校の現状を番組やニュースが反映させるのでしょうけど、テレビでおきていることと、現実の学校で起きることに境が無くなったような・・・そして金八先生の中で最も印象的だったのは「腐ったミカンの方程式」学校にミカン箱の中の腐ったミカンが存在していたら、他のミカンも腐るので、とって捨てる！的な圧力に対し、金八先生は猛然と抵抗するのです。「われわれは、ミカンや機械を作っているんじゃないんです。人間を作っているんです！」現在は「関係機関との連携」とか「学びの多様化」とか「個別最適な学び」とか言われます。「どんな困難があってもクラスの子どもたちを最後まで見放さず、抱え込んで卒業式までともに歩むんだ！」という、当時の「義務教育の矜持」は今も生きているのだろうか？と思います。できればそうしたい。だけど先生達が疲弊し、真面目に当たり前に学ぼうとする生徒達の「学ぶ権利」が阻害されたら・・・自分も悩みながら最後まで抵抗しようと思います。みんなで作る鶴谷をめざして。